

第 1 5 0 回

取引先企業景気動向調査

〔平成27年 7- 9月 実績〕
〔平成27年 10-12月 見通し〕

瀬戸信用金庫

総合企画部

調査概要

1. 調査期間 平成27年7～9月を対象に9月上旬に実施した。
2. 調査対象先 瀬戸・尾張旭地区は11業種175社。（うち陶磁器製造業88社）
名古屋地区は7業種137社。（下表）
3. 調査方法 当金庫の営業店担当者による面接聞き取り調査。
4. 分析方法 各質問事項につき、増加（上昇）したとする企業割合と減少（下降）したとする企業割合の差（DI）を中心にして分析した。
なお、珪砂製造業、和飲食器卸売業、電設資材卸売業、建築・土木・生コン製造業、螺子製造業は陶磁器製造業の集計には含めていない。

《瀬戸・尾張旭地区》

《名古屋地区》

《瀬戸・尾張旭地区》				《名古屋地区》					
業種		対象企業	有効回答	比率%	業種		対象企業	有効回答	比率%
陶磁器製造業	ノベルティ	17	17	100.0	製造業	繊維製品	11	11	100.0
	洋飲食器	9	9	100.0		機械部品	37	37	100.0
	タイル	8	8	100.0		紙加工品	14	14	100.0
	電磁器	21	20	95.2	卸売業	鋼材伸銅	21	21	100.0
	ファインセラミックス	14	14	100.0		建築材料	15	15	100.0
	和飲食器	19	19	100.0		家具文具	10	10	100.0
陶磁器製造業計	88	87	98.9	— — —		—	—	—	
珪砂製造業	11	11	100.0	— — —		—	—	—	
その他5業種	和飲食器卸売業	24	24	100.0	— — —	—	—	—	
	電設資材卸売業	18	18	100.0	— — —	—	—	—	
	建築・土木・生コン製造業	17	17	100.0	— — —	—	—	—	
	螺子製造業	17	17	100.0	— — —	—	—	—	
	その他5業種計	87	87	100.0	建設業	29	29	100.0	
瀬戸・尾張旭地区合計		175	174	99.4	名古屋地区合計		137	137	100.0
合計		対象企業数 312 社		有効回答数 311 社		回答率 99.7%			

判断指数：（DI）とは、業況・受注・売上・収益の増加企業割合から減少企業割合を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて、景気がどの方向に向きつつあるかをみる方法である。

（例）前回に比べて売上が増加した企業割合40%、変わらなかった企業割合50%、減少した企業割合10%の場合、判断指数は $40 - 10 = 30$ となる。

判断指数がプラスのとき → 景気上向き

判断指数が0のとき → 景気横ばい

判断指数がマイナスのとき → 景気下向きと読み取る。

< 瀬戸・尾張旭地区 >

1. 今回調査の景況（7～9月）

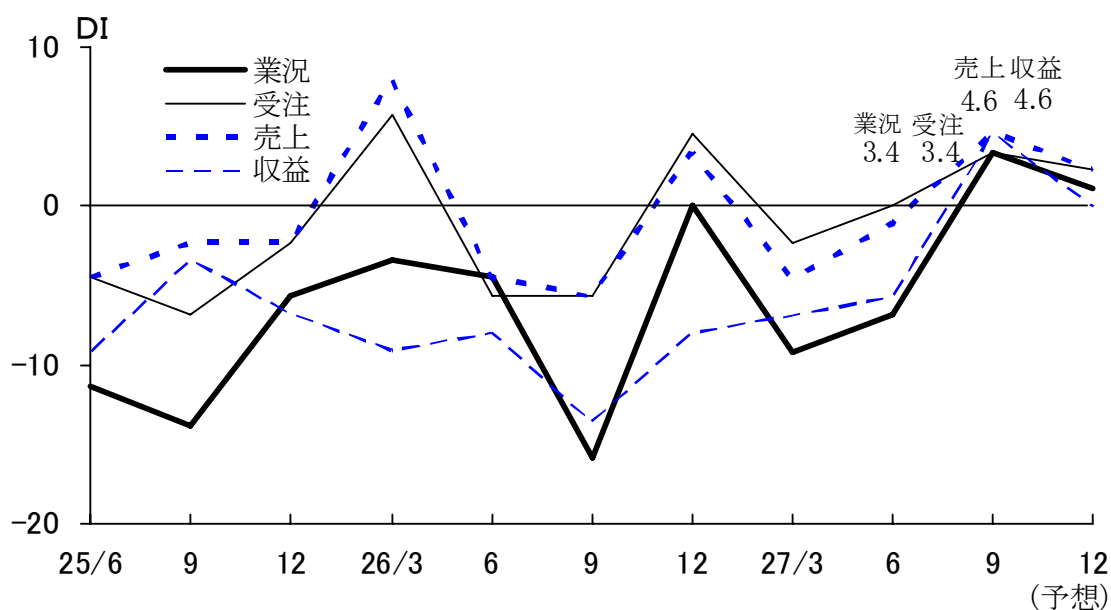
業況DIが初めてプラスに転じる

瀬戸・尾張旭地区の陶磁器製造業取引先企業（有効回答企業 87 社）の7～9月（聞き取りによる前回調査4～6月との対比）の業況についてみると、業況判断DIは3.4となり、前回実績（△6.9）比10.3ポイント改善し、現在の形式で調査を開始した平成18年1～3月期以来、はじめてプラスに転じた。

当地区陶磁器製造業においては、需要低迷は続いているものの、新規取引先からの受注や海外向けの大型受注の動きがあり、全体的に好転した。

業種別の業況判断DIをみると、ノベルティ・洋飲食器・タイル・電磁器・ファインセラミックスは改善、和飲食器は悪化した。

◎ 陶磁器製造業の業況・受注・売上・収益DI推移（前回調査比）



2. 来期の見通し（10～12月）

2.3ポイント悪化予想

陶磁器製造業全体での予想業況判断DIは1.1となり、今回実績（3.4）比2.3ポイントの悪化予想となったものの、7～9月期に引き続きプラスの見通し。

業種別の予想業況判断DIでは、タイルは改善、ノベルティ・洋飲食器・和飲食器は横ばい、電磁器は悪化、ファインセラミックスは弱含みで推移する見通し。

◎陶磁器製造業のD I 推移

時期 指標		「増加－減少」企業割合(DI)										
		H25			H26				H27			H27.10-12
		4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	(予想)
前回調査比	業況											
		-11.4	-13.8	-5.7	-3.4	-4.5	-15.9	0.0	-9.2	-6.9	3.4 (-3.4)	(1.1)
	受注額	-4.5	-6.9	-2.3	5.7	-5.7	-5.7	4.5	-2.3	0.0	3.4 (3.4)	(2.3)
	売上額	-4.5	-2.3	-2.3	8.0	-4.5	-5.7	3.4	-4.6	-1.1	4.6 (3.4)	(2.3)
	売上数量	-6.8	-3.4	-2.3	2.3	-6.8	-8.0	1.1	-4.6	-1.1	8.0 (4.6)	(5.7)
	販売単価	-3.4	0.0	-1.1	-1.1	3.4	9.1	1.1	2.3	0.0	1.1 (-1.1)	(0.0)
	仕入価格	13.6	13.8	18.2	15.9	23.9	20.5	13.6	12.6	14.9	3.4 (13.8)	(2.3)
	製品在庫	-1.1	2.3	-1.1	0.0	5.7	2.3	0.0	-2.3	3.4	1.1 (1.1)	(1.1)
	原材料在庫	0.0	2.3	1.1	1.1	2.3	2.3	-1.1	0.0	2.3	1.1 (1.1)	(1.1)
	収益	-9.1	-3.4	-6.8	-9.1	-8.0	-13.6	-8.0	-6.9	-5.7	4.6 (-2.3)	(0.0)
資金繰り	-10.2	-9.2	-11.4	-9.1	-17.0	-10.2	-6.8	-9.2	-6.9	-4.6 (-3.4)	(-6.9)	
前年同期比	売上額	2.3	-3.4	-4.5	8.0	-2.3	-8.0	-2.3	-5.7	0.0	5.7	
	収益	-2.3	-9.2	-10.2	-4.5	-5.7	-10.2	-5.7	-9.2	-1.1	6.9	
設備投資 実施割合(%)		3.4	4.6	3.4	5.7	6.8	4.5	4.5	5.7	5.7	4.6 (4.6)	(2.3)
平均受注残	6月末 1.5ヶ月	9月末 1.4ヶ月	12月末 1.4ヶ月	3月末 1.5ヶ月	6月末 1.7ヶ月	9月末 1.7ヶ月	12月末 1.7ヶ月	3月末 1.7ヶ月	6月末 1.7ヶ月	9月末 1.9ヶ月		

注. () 内は前期に予想した割合を示す。

景況天気図



陶磁器製造業

<ノベルティ>

1. 景況

業況判断D Iは5.9、前回(0.0)に比べ5.9ポイント改善した。海外での大型受注契約を獲得した企業や夏季商品の受注増加となった企業があり、受注・売上は横ばい、収益は改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは5.9、今期実績比変わらず横ばいで推移する見込み。季節商品である干支の売上増加を見込む企業や引き続き海外での大型受注契約を見込む企業もあり、D Iはプラスで推移し、受注・売上は横ばい、収益は弱含みで推移する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	17.6	11.8	70.6	5.9	5.9		11.8	5.9	82.4	5.9	0.0
受注	11.8	0.0	88.2	11.8	0.0		11.8	0.0	88.2	11.8	0.0
売上	11.8	0.0	88.2	11.8	0.0	5.9	11.8	0.0	88.2	11.8	0.0
収益	23.5	5.9	70.6	17.6	11.7	5.9	17.6	5.9	76.5	11.8	△5.8

<洋飲食器>

1. 景況

業況判断D Iは0.0、前回(△11.1)に比べ11.1ポイント改善した。厳しい業況が続いているものの、販路拡大に努めている企業もあり、受注・収益は改善、売上は横ばいで推移した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比変わらず横ばいで推移する見込み。販路拡大や人件費の削減により収益増加を目指す企業もあるが、業況は厳しく、受注・売上・収益はともに横ばいで推移する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	0.0	100.0	0.0	11.1		0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
受注	0.0	0.0	100.0	0.0	22.2		0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
売上	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
収益	0.0	11.1	88.9	△11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	88.9	△11.1	0.0

<タイル>

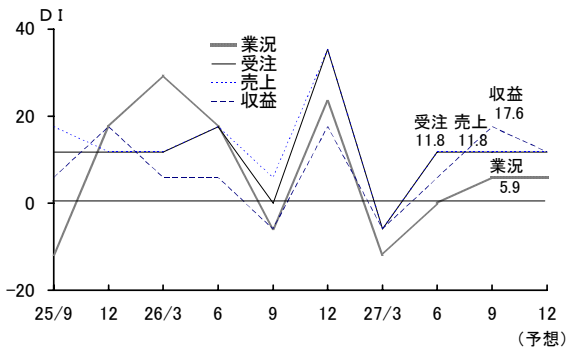
1. 景況

業況判断D Iは△12.5、前回(△28.6)に比べ16.1ポイント改善した。主力販売先の倒産に伴い業績が低迷している企業があるものの、リフォームを中心とした小型受注を数多く獲得するなど、受注・売上・収益は改善した。

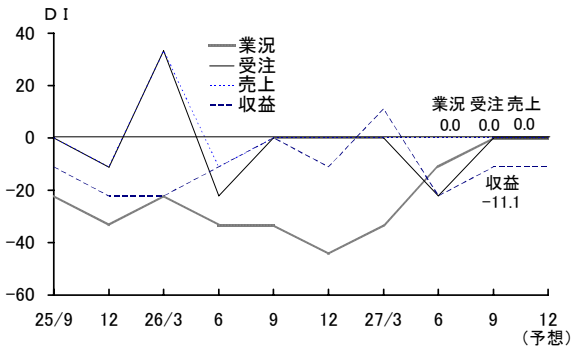
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比12.5ポイント改善する見込み。引き続き主力販売先の倒産の影響やマンション着工数の減少による受注減少を見込む企業があり、受注・売上は悪化、収益は横ばいで推移する見込み。

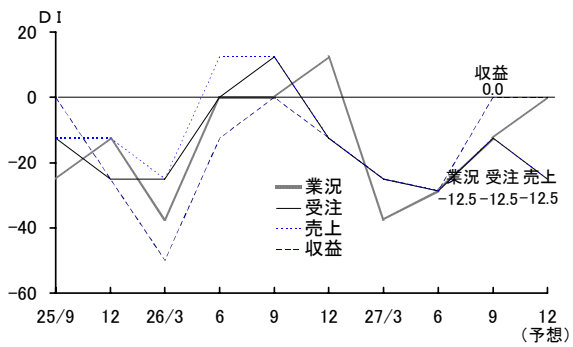
	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	12.5	87.5	△12.5	16.1		12.5	12.5	75.0	0.0	12.5
受注	0.0	12.5	87.5	△12.5	16.1		0.0	25.0	75.0	△25.0	△12.5
売上	0.0	12.5	87.5	△12.5	16.1	25.0	0.0	25.0	75.0	△25.0	△12.5
収益	0.0	0.0	100.0	0.0	28.6	25.0	12.5	12.5	75.0	0.0	0.0



時期	前期 平成27年 4～6月	当期 平成27年 7～9月	来期見通し 平成27年 10～12月
業種	ノベルティ	ノベルティ	ノベルティ



洋飲食器	洋飲食器	洋飲食器	洋飲食器
------	------	------	------



タイル	タイル	タイル	タイル
-----	-----	-----	-----

＜電磁器＞

1. 景況

業況判断D Iは5.0、前回(△9.5)に比べ14.5ポイント改善した。販売先からの値下げ要請や主要取引先からの受注減少となった企業もあるが、新規販売先を獲得した企業もあり、受注・売上は悪化したものの、収益は改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比5.0ポイント悪化の見込み。引き続き販売先からの値下げ要請を予想する企業もあるものの、東京五輪にむけて受注増加を見込む企業もあり、受注・売上は改善、収益は悪化する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	10.0	5.0	85.0	5.0	14.5		5.0	5.0	90.0	0.0	△5.0
受注	5.0	10.0	85.0	△5.0	△5.0		5.0	5.0	90.0	0.0	5.0
売上	5.0	10.0	85.0	△5.0	△5.0	△5.0	5.0	5.0	90.0	0.0	5.0
収益	10.0	10.0	80.0	0.0	9.5	0.0	0.0	5.0	95.0	△5.0	△5.0

＜ファインセラミックス＞

1. 景況

業況判断D Iは35.7、前回(7.1)に比べ28.6ポイント改善した。原子力発電所関連で需要が増加した企業や触媒関連で受注が増加した企業があり、受注・収益は横ばい、売上は改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは21.4、今期実績比14.3ポイント悪化する見込み。引き続き原子力発電所関連での受注増加を見込む企業もあるものの、受注・売上・収益は弱含みで推移する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	42.8	7.1	50.0	35.7	28.6		28.5	7.1	64.3	21.4	△14.3
受注	14.3	0.0	85.7	14.3	0.0		7.1	0.0	92.9	7.1	△7.2
売上	14.3	0.0	85.7	14.3	7.2	14.3	7.1	0.0	92.9	7.1	△7.2
収益	28.5	14.3	57.1	14.3	0.0	14.3	7.1	0.0	92.9	7.1	△7.2

＜和飲食器＞

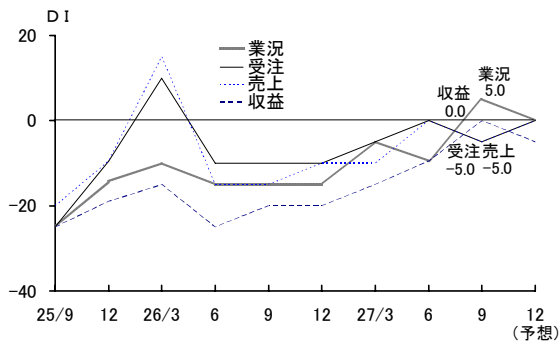
1. 景況

業況判断D Iは△15.8、前回(△10.5)に比べ5.3ポイント悪化した。インターネット販売やスポットの受注により増加した企業があり、受注・売上・収益はいずれも改善した。

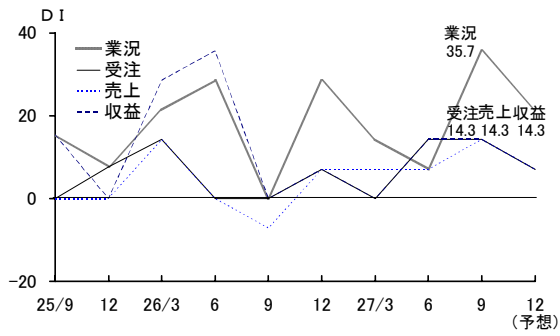
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは△15.8、今期実績比横ばいで推移する見込み。冬物商品の受注や新規取引先からの受注を見込む企業があるものの、受注は横ばい、売上・収益は悪化する見込み。

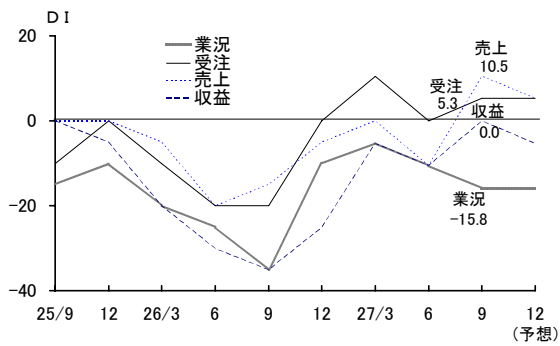
	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	5.3	21.1	73.7	△15.8	△5.3		0.0	15.8	84.2	△15.8	0.0
受注	5.3	0.0	94.7	5.3	5.3		5.3	0.0	94.7	5.3	0.0
売上	10.5	0.0	89.5	10.5	21.0	0.0	5.3	0.0	94.7	5.3	△5.2
収益	5.3	5.3	89.5	0.0	10.5	0.0	0.0	5.3	94.7	△5.3	△5.3



時期	前期 平成27年 4～6月	当期 平成27年 7～9月	来期見通し 平成27年 10～12月
業種			
電磁器			



ファインセラミックス			
------------	--	--	--



和飲食器			
------	--	--	--

その他

<珪砂製造業>

1. 景況

業況判断D Iは9.1、前回(18.2)に比べ9.1ポイント悪化した。農業用肥料の受注が増加となった企業や主要取引先からの一括受注により増加となった企業があり、受注・売上・収益はいずれも改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは9.1、今期実績比変わらず横ばいで推移する見込み。年末に取引先からの受注調整により減少を見込む企業があり、受注・売上は悪化、収益は横ばいで推移する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	18.2	9.1	72.7	9.1	△9.1		18.2	9.1	72.7	9.1	0.0
受注	27.3	0.0	72.7	27.3	9.1		0.0	9.1	90.9	△9.1	△36.4
売上	27.3	0.0	72.7	27.3	27.3	0.0	0.0	9.1	90.9	△9.1	△36.4
収益	9.1	9.1	81.8	0.0	18.2	△27.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

<和飲食器卸売業>

1. 景況

業況判断D Iは△12.5、前回(△8.3)に比べ4.2ポイント悪化した。主要取引先からの新商品受注により売上が増加した企業がある一方、ガラス製品の流通が増加したことや中国経済悪化の影響により受注減少となった企業があり、売上は悪化、収益は改善した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比12.5ポイント改善する見込み。主要取引先からの売上を見込む企業や年末に向けて冬物商品の売上増加を見込む企業があり、売上・収益は改善する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	4.2	16.7	79.2	△12.5	△4.2		12.5	12.5	75.0	0.0	12.5
売上	8.3	16.7	75.0	△8.3	△8.3	△4.2	16.7	4.2	79.2	12.5	20.8
収益	4.2	12.5	83.3	△8.3	8.4	△12.5	12.5	8.3	79.2	4.2	12.5

<電設資材卸売業>

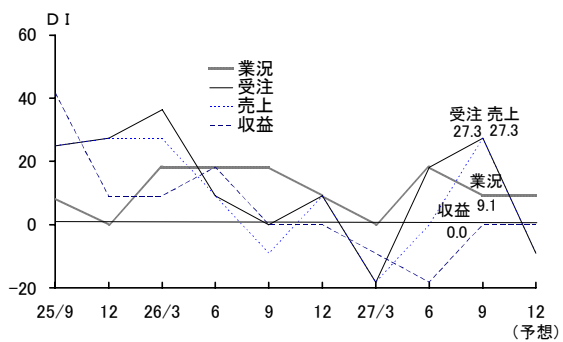
1. 景況

業況判断D Iは△5.6、前回(5.6)に比べ11.2ポイント悪化した。売上が安定している企業が多いものの、例年7~9月期は受注・売上が減少する企業や厳しい業況が続いている企業もあり、売上・収益は悪化した。

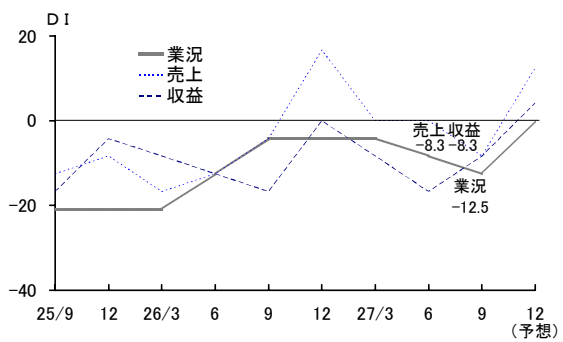
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは5.6、今期実績比11.2ポイント改善する見込み。冬季のイルミネーションの売上増加を見込む企業や主要取引先からの受注増加を見込む企業があり、売上・収益は改善する見込み。

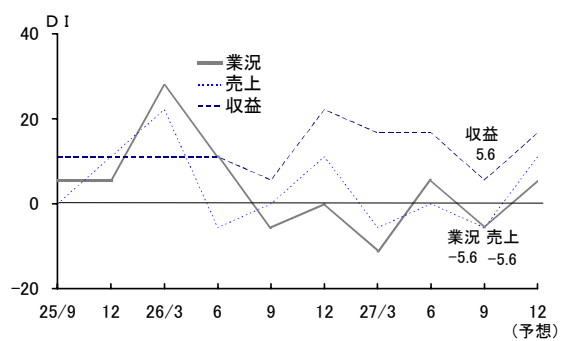
	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	0.0	5.6	94.4	△5.6	△11.2		5.6	0.0	94.4	5.6	11.2
売上	0.0	5.6	94.4	△5.6	△5.6	5.6	11.2	0.0	88.9	11.1	16.7
収益	5.6	0.0	94.4	5.6	△11.1	5.6	16.7	0.0	83.3	16.7	11.1



時期	前期 平成27年 4～6月	当期 平成27年 7～9月	来期見通し 平成27年 10～12月
業種			
珪砂製造業			



和飲食器 卸売業			
-------------	--	--	--



電設資材 卸売業			
-------------	--	--	--

〈建築・土木・生コン製造業〉

1. 景況

業況判断D Iは0.0、前回(△11.8)に比べ11.8ポイント改善した。公共工事の受注状況は企業によってバラツキがあるものの、受注は改善、売上・収益は横ばいで推移した。

2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは5.9、今期実績比5.9ポイント改善する見込み。入札における採算性の重視により売上増加を見込む企業があり、受注・売上・収益はともに改善する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	5.9	5.9	88.2	0.0	11.8		5.9	0.0	94.1	5.9	5.9
受注	0.0	5.9	94.1	△5.9	5.9		5.9	0.0	94.1	5.9	11.8
売上	0.0	11.8	88.2	△11.8	0.0	△5.9	0.0	0.0	100.0	0.0	11.8
収益	5.9	11.8	82.4	△5.9	0.0	△5.9	11.8	5.9	82.4	5.9	11.8

〈螺子製造業〉

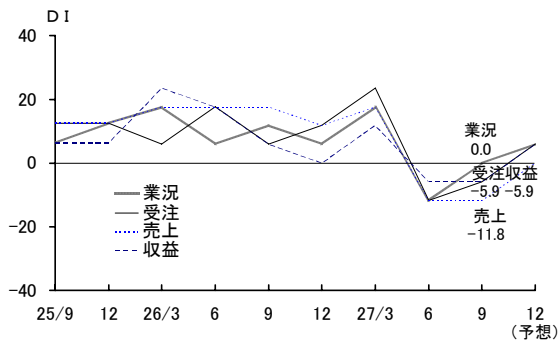
1. 景況

業況判断D Iは5.9、前回(△5.9)に比べ11.8ポイント改善した。取引先からの取引額が減少した企業もあるが、自動車メーカーからの受注が増加した企業があり、受注は横ばい、売上・収益は改善した。

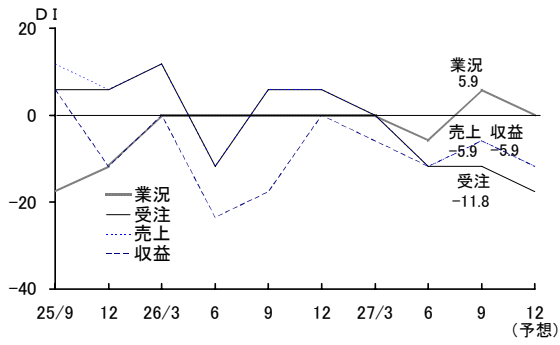
2. 来期の見通し

予想業況判断D Iは0.0、今期実績比5.9ポイント悪化する見込み。引き続き取引先からの取引額減少を見込む企業や値下げ要請を見込む企業があり、受注・売上・収益はともに悪化する見込み。

	27年7-9月の実績				前回との 変動幅	前年 同期比 D I	27年10-12月の見通し				今回との 変動幅
	増加	減少	不変	D I			増加	減少	不変	D I	
業況	11.8	5.9	82.4	5.9	11.8		11.8	11.8	76.5	0.0	△5.9
受注	0.0	11.8	88.2	△11.8	0.0		0.0	17.6	82.4	△17.6	△5.8
売上	5.9	11.8	82.4	△5.9	5.9	△5.9	0.0	11.8	88.2	△11.8	△5.9
収益	5.9	11.8	82.4	△5.9	5.9	0.0	0.0	11.8	88.2	△11.8	△5.9



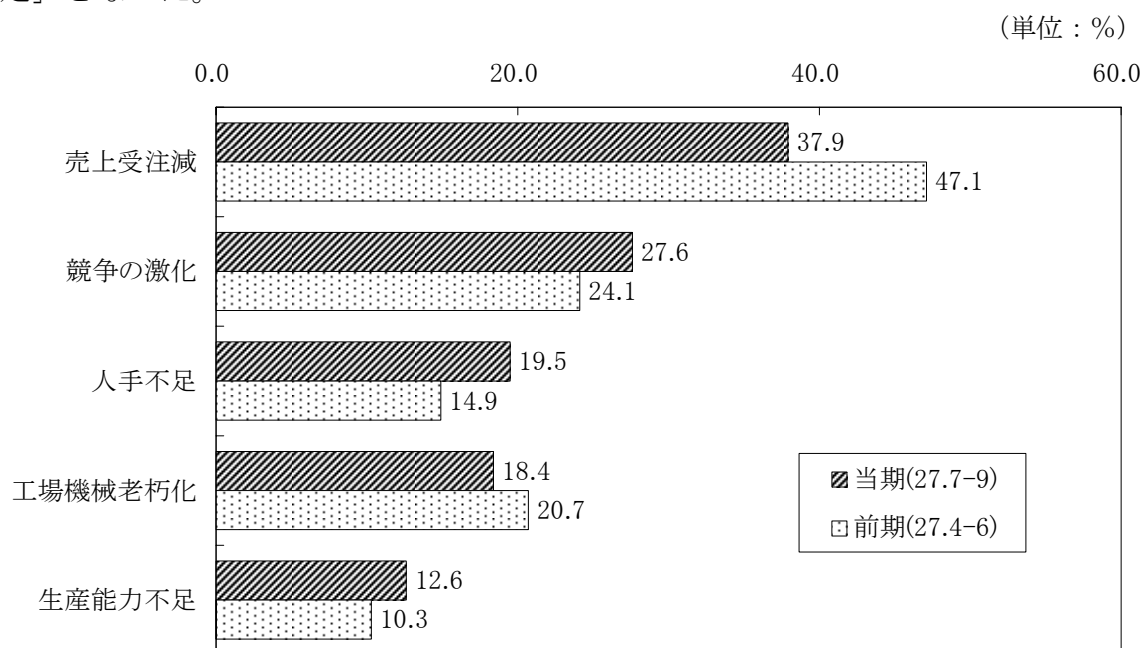
時期	前期 平成27年 4～6月	当期 平成27年 7～9月	来期見通し 平成27年 10～12月
業種			
建築・土木 生コン 製造業			



螺子製造業			
-------	--	--	--

経営上の問題点上位5項目（陶磁器製造業）

今回調査では、1位「売上・受注の停滞・減少」、2位「競争の激化」、3位「人手不足」となった。



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目回答

設備投資の動き（陶磁器製造業）

今回調査では、設備投資の実績は4.6%で、前期実績を1.1ポイント下回った。来期（今後3か月以内）は2.3%で、当期実績を2.3ポイント下回って推移する予想となった。

(単位：%)

	前期 27年4-6月期	当期 27年7-9月期	来期 27年10-12月期
実施あり	5.7	4.6	2.3
土地	0.0	0.0	0.0
建物	20.0	0.0	0.0
機械の新設	60.0	75.0	100.0
機械の更改	20.0	25.0	0.0
その他	20.0	0.0	0.0
実施なし	94.3	95.4	97.7

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で、1企業が複数回答あり。

中小企業が金融機関に望むこと

特別調査として「中小企業が金融機関に望むこと」を、瀬戸・尾張旭地区の11業種175社（うち陶磁器製造業88社）、名古屋地区の7業種137社を対象に調査を実施しました。結果は以下のとおりです。

なお、全国、愛知県は、信金中央金庫の調査によるもので、調査先は全国15,954先、愛知県731先の結果です。

1. 社長の年齢と貴社の業歴について

(単位:%)

	社長の年齢					貴社の業歴				
	20歳代、30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上40年未満	40年以上
ノベルティ	0.0	5.9	41.2	35.3	17.6	0.0	11.8	11.8	17.6	58.8
洋飲食器	0.0	22.2	0.0	33.3	44.4	0.0	11.1	22.2	22.2	44.4
タイル	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	37.5	12.5	12.5	37.5
電磁器	0.0	5.0	35.0	35.0	25.0	0.0	10.0	20.0	10.0	60.0
ファインセラミックス	0.0	14.3	21.4	14.3	50.0	0.0	7.1	21.4	7.1	64.3
和飲食器	0.0	15.8	21.1	31.6	31.6	0.0	5.3	10.5	10.5	73.7
陶磁器製造業計	0.0	12.6	28.7	29.9	28.7	0.0	11.5	16.1	12.6	59.8
珪砂	0.0	9.1	27.3	45.5	18.2	0.0	18.2	0.0	18.2	63.6
和飲食器卸売	0.0	12.5	12.5	29.2	45.8	0.0	4.2	12.5	16.7	66.7
電設資材卸売	5.6	0.0	22.2	61.1	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	66.7
建築・土木・生コン	0.0	17.6	29.4	35.3	17.6	0.0	11.8	23.5	11.8	52.9
螺子	5.9	11.8	17.6	35.3	29.4	0.0	5.9	23.5	5.9	64.7
その他業種計	2.3	10.3	20.7	40.2	26.4	0.0	6.9	14.9	14.9	63.2
瀬戸・尾張旭地区取引先計	1.1	11.5	24.7	35.1	27.6	0.0	9.2	15.5	13.8	61.5
名古屋地区取引先計	2.2	19.0	27.7	31.4	19.7	1.5	5.1	9.5	13.9	70.1
当金庫取引先計	1.6	14.8	26.0	33.4	24.1	0.6	7.4	12.9	13.8	65.3
全国	3.4	16.9	26.0	34.4	19.3	3.1	10.1	16.5	19.4	50.9
愛知	3.3	22.6	29.8	28.0	16.4	2.1	6.2	11.5	16.0	64.2

社長の高齢化が進む

<当金庫取引先>

社長（代表者）の年齢階層については、「60歳代」と回答した割合が33.4%と最も高く、以下「50歳代（26.0%）」、「70歳代以上（24.1%）」となり、8割以上の代表者が50歳以上となっている。同様の調査を行った前回（平成22年9月）の結果と比較すると、60歳代の比率が低下し、70歳代以上の比率が上昇している。

瀬戸・尾張旭地区取引先は60歳代・70歳代以上の代表者が多い一方、名古屋地区取引先では60歳代に加えて50歳代の代表者が多く、40歳代についても名古屋地区取引先の方が多かった。

業歴については「40年以上」の比率が65.3%と最も高く、以下「30年以上40年未満（13.8%）」「20年以上30年未満（12.9%）」が続いた。前回結果と比較すると「10年以上20年未満」「20年以上30年未満」の比率が上昇し、「30年以上40年未満」「40年以上」の比率は低下している。

瀬戸・尾張旭地区取引先、名古屋地区取引先においても、同様に「40年以上」の割合が高くなっている。

全国、愛知県はともに、当金庫より若年層の代表者が多く、業歴も短い傾向があった。

<陶磁器製造業>

社長（代表者）の年齢階層については、「60歳代」が29.9%、「50歳代」と「70歳以上」がともに28.7%となり、当金庫と同様に8割以上の代表者が50歳以上となっている。

業歴については、「40年以上」と回答した割合が59.8%と最も高いものの、当金庫全体と比較して低い割合となっている。一方で「10年以上20年未満」「20年以上30年未満」と回答した企業は、当金庫全体と比較して高い割合となっている。

2. メインバンクとその取引期間について

(単位:%)

	メインバンク						取引期間			
	本調査 担当 信用金庫	他の 信用金庫	都市銀行	地銀・ 第二地銀	信組・ 農協・ その他	政府系 金融機関	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上
ノベルティ	82.4	0.0	0.0	11.8	5.9	0.0	0.0	5.9	17.6	76.5
洋飲食器	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9
タイル	87.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	62.5
電磁器	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	25.0	70.0
ファインセラミックス	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	85.7
和飲食器	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	89.5
陶磁器製造業計	90.8	2.3	3.4	2.3	1.1	0.0	0.0	5.7	14.9	79.3
珪砂	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	72.7
和飲食器卸売	95.8	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	8.3	87.5
電設資材卸売	77.8	5.6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9
建築・土木・生コン	70.6	11.8	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	82.4
螺子	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	94.1
その他業種計	88.5	3.4	1.1	6.9	0.0	0.0	1.1	1.1	11.5	86.2
瀬戸・尾張旭地区取引先計	89.7	2.9	2.3	4.6	0.6	0.0	0.6	3.4	13.2	82.8
名古屋地区取引先計	63.5	2.9	14.6	18.2	0.7	0.0	0.7	5.1	13.1	81.0
当金庫取引先計	78.1	2.9	7.7	10.6	0.6	0.0	0.6	4.2	13.2	82.0
全国	70.7	4.9	6.6	15.9	1.0	0.8	2.6	6.4	18.0	73.0
愛知	74.2	6.9	9.0	7.9	1.7	0.4	1.4	2.5	13.0	83.1

調査対象先は長年の信用金庫取引先が多い

<当金庫取引先>

メインバンクについては、「本調査担当信用金庫」が78.1%と最も高い回答割合となり、「地銀・第二地銀(10.6%)」、「都市銀行(7.7%)」が続いた。また取引期間については、「20年以上」が82.0%と最も高く、続いて「10年以上20年未満(13.2%)」、「5年以上10年未満(4.2%)」となり、今回の調査対象先は長年の信用金庫取引先が多いことが伺える。

瀬戸・尾張旭地区取引先のメインバンクは、「本調査担当信用金庫」が89.7%となり、当金庫全体に比べ高い割合となった。名古屋地区取引先のメインバンクは、「本調査担当信用金庫」が63.5%と最も高く、続いて「地銀・第二地銀(18.2%)」、「都市銀行(14.6%)」となり、当金庫全体と比較して他の金融機関をメインバンクとする割合が高かった。取引期間については、地区別で大きな違いはみられなかった。

全国・愛知県をみると、メインバンク・取引期間ともに当金庫と大きな違いはみられなかった。

<陶磁器製造業>

メインバンクについては、「本調査担当信用金庫」が90.8%と最も高い回答割合となり、当金庫全体と比較しても高い結果となり、他の金融機関の割合は低かった。取引期間については、「20年以上」の割合が79.3%、「10年以上20年未満(14.9%)」、「5年以上10年未満(5.7%)」となり、当金庫全体と同様の結果となった。

業種別にみると、メインバンクについては全ての業種で「本調査担当信用金庫」の回答が8割を超えており、大きな違いはみられなかった。取引期間については、洋飲食器・ファインセラミックス・和飲食器は「20年以上」が8割、ノベルティ・電磁器では7割となった一方で、タイルでは6割の企業が「20年以上」と回答したものの、より短い期間の企業の割合も高かった。

その他業種においては、メインバンクについて電設資材卸売業、建築・土木・生コン製造業では「本調査担当信用金庫」の回答は7割となり、他の金融機関の割合が比較的高かった。取引期間については業種ごとに大きな違いはみられなかった。

3. 地域金融機関の体制面で望むこと(複数回答)

(単位:%)

	担当者の訪問回数増加	担当者の訪問時の滞在時間延長	担当者交代時の丁寧な引継ぎ	担当者の頻繁な人事異動がないこと	支店窓口での相談機能の強化	IB等非対面チャネル充実	本部専担者・外部専門家による支援	要望に対する迅速な対応	その他	特に期待していない
ノベルティ	5.9	0.0	29.4	41.2	17.6	5.9	17.6	58.8	0.0	0.0
洋飲食器	11.1	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	22.2	44.4	0.0	0.0
タイル	12.5	0.0	37.5	25.0	25.0	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0
電磁器	10.0	5.0	25.0	10.0	15.0	5.0	35.0	45.0	0.0	15.0
ファインセラミックス	0.0	0.0	42.9	42.9	7.1	0.0	14.3	50.0	0.0	14.3
和飲食器	0.0	5.3	42.1	47.4	10.5	5.3	21.1	47.4	0.0	26.3
陶磁器製造業計	5.7	2.3	31.0	33.3	16.1	4.6	23.0	47.1	0.0	11.5
珪砂	9.1	0.0	45.5	45.5	9.1	0.0	45.5	54.5	9.1	0.0
和飲食器卸売	8.3	0.0	58.3	41.7	12.5	4.2	8.3	54.2	0.0	8.3
電設資材卸売	16.7	5.6	22.2	27.8	5.6	11.1	22.2	72.2	0.0	0.0
建築・土木・生コン	5.9	5.9	41.2	11.8	29.4	0.0	11.8	64.7	0.0	5.9
螺子	5.9	5.9	41.2	41.2	5.9	0.0	17.6	70.6	0.0	0.0
その他業種計	9.2	3.4	42.5	33.3	12.6	3.4	18.4	63.2	1.1	3.4
瀬戸・尾張旭地区取引先計	7.5	2.9	36.8	33.3	14.4	4.0	20.7	55.2	0.6	7.5
名古屋地区取引先計	13.1	2.2	35.8	33.6	11.7	2.9	24.8	60.6	0.0	8.0
当金庫取引先計	10.0	2.6	36.3	33.4	13.2	3.5	22.5	57.6	0.3	7.7
全国	12.6	2.3	27.0	34.5	11.2	7.0	20.5	49.8	2.7	8.9
愛知	9.8	2.3	27.8	34.8	8.5	9.2	24.2	56.5	2.3	8.1

地域金融機関には「迅速な対応」を求める

<当金庫取引先>

地域金融機関に体制面で望むことについては、「要望に対する迅速な対応」が57.6%と最も高い回答割合となり、続いて「担当者交代時の丁寧な引継ぎ(36.3%)」「担当者の頻繁な人事異動がないこと(33.4%)」となった。

瀬戸・尾張旭地区取引先、名古屋地区取引先については地区別で回答割合の大きな変化はみられなかったものの、「担当者の訪問回数増加」「要望に対する迅速な対応」については名古屋地区取引先での要望が多かった。

全国・愛知県は、当金庫と同様に「要望に対する迅速な対応」が最も高い回答割合となったが、「担当者交代時の丁寧な引継ぎ」は3割以下と当金庫に比べて低くなった。

<陶磁器製造業>

地域金融機関に体制面で望むことについては、「要望に対する迅速な対応」が47.1%と最も高い回答割合となり、「担当者の頻繁な人事異動がないこと(33.3%)」「担当者交代時の丁寧な引継ぎ(31.0%)」が続いた。

業種別にみると、タイル以外の5業種で「要望に対する迅速な対応」が最も高く、タイルは「担当者交代時の丁寧な引継ぎ」が最も高くなった。また、上位3つ以外の項目では、洋飲食器では「支店窓口での相談機能の強化」が、電磁器では「本部専担者・外部専門家による支援」がそれぞれ高い割合となっている。

その他業種においても、上位3つの項目は当金庫全体と同様であった。「要望に対する迅速な対応」は電設資材卸売・螺子製造業で7割以上の企業が挙げている。また、珪砂製造業では4割以上の企業が「本部専担者・外部専門家による支援」を挙げている。

4. 地域金融機関に期待する支援サービス(金融取引以外)(複数回答)

(単位:%)

	事業計画、 経営戦略の 策定支援	財務診断 アドバイス	ビジネス マッチング 等販路 拡大支援	補助金、 助成金の 紹介・相談	事業承継、 M&A 支援等	研究開発 のための 専門機関 紹介	海外展開 支援	左記以外の 経営に 関する 情報提供	その他	特に 期待して いない
ノベルティ	35.3	23.5	41.2	29.4	5.9	0.0	11.8	5.9	0.0	5.9
洋飲食器	77.8	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
タイル	25.0	12.5	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5
電磁器	30.0	25.0	10.0	50.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0	25.0
ファインセラミックス	0.0	28.6	42.9	57.1	14.3	7.1	14.3	0.0	0.0	21.4
和飲食器	36.8	10.5	47.4	57.9	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	26.3
陶磁器製造業計	32.2	19.5	31.0	43.7	9.2	2.3	4.6	1.1	1.1	21.8
珪砂	36.4	36.4	18.2	36.4	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1
和飲食器卸売	29.2	16.7	37.5	37.5	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	20.8
電設資材卸売	27.8	38.9	33.3	38.9	5.6	5.6	0.0	5.6	0.0	11.1
建築・土木・生コン	29.4	23.5	35.3	58.8	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	17.6
螺子	41.2	41.2	11.8	58.8	11.8	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9
その他業種計	32.2	29.9	28.7	46.0	5.7	2.3	2.3	6.9	0.0	13.8
瀬戸・尾張旭地区取引先計	32.2	24.7	29.9	44.8	7.5	2.3	3.4	4.0	0.6	17.8
名古屋地区取引先計	24.1	26.3	38.0	34.3	15.3	2.9	4.4	5.1	0.7	21.2
当金庫取引先計	28.6	25.4	33.4	40.2	10.9	2.6	3.9	4.5	0.6	19.3
全国	29.0	25.9	34.9	39.6	12.0	3.7	2.6	6.9	1.4	15.0
愛知	30.7	25.2	35.0	45.2	13.2	4.0	5.5	8.0	1.1	12.5

期待する支援は多岐にわたる

<当金庫取引先>

地域金融機関に期待する金融取引以外の支援サービスについては、「補助金、助成金の紹介・相談」が40.2%と最も高い回答割合となり、続いて「ビジネスマッチング等販路拡大支援(33.4%)」「事業計画、経営戦略の策定支援(28.6%)」、「財務診断アドバイス(25.4%)」となった。また、「特に期待していない」と回答した企業が19.3%あった。

瀬戸・尾張旭地区取引先においては、「補助金、助成金の紹介・相談」の回答割合が44.8%、続いて「ビジネスマッチング等販路拡大支援(33.4%)」「事業計画、経営戦略の策定支援(32.2%)」となった。

名古屋地区取引先では、「ビジネスマッチング等販路拡大支援」の回答割合が38.0%、「補助金、助成金の紹介・相談(34.3%)」「財務診断アドバイス(26.3%)」となった。

全国・愛知県をみると、当金庫取引先と比較して大きな違いはみられなかった。

<陶磁器製造業>

地域金融機関に期待する金融取引以外の支援サービスについては、「補助金、助成金の紹介・相談」が43.7%と最も高い回答割合となり、「事業計画、経営戦略の策定支援(32.2%)」「ビジネスマッチング等販路拡大支援(31.0%)」が続いた。

業種別でみると、「補助金、助成金の紹介・相談」は電磁器・ファインセラミックス・和飲食器の5割以上の企業が挙げているのに対し、「事業計画、経営戦略の策定支援」は洋飲食器の7割以上の企業が挙げている。タイルは回答が分散したが、「事業承継、M&A支援等」の回答割合が25.0%と比較的高くなっている。

5. 金融機関の訪問頻度

(単位:%)

	本調査担当信用金庫			その他の主な取引金融機関			本調査担当信用金庫以外取引なし
	多すぎる	満足している	少なすぎる	多すぎる	満足している	少なすぎる	
ノベルティ	0.0	100.0	0.0	0.0	64.7	5.9	29.4
洋飲食器	11.1	88.9	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
タイル	12.5	87.5	0.0	12.5	75.0	0.0	12.5
電磁器	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	10.0	40.0
ファインセラミックス	7.1	92.9	0.0	0.0	71.4	7.1	21.4
和飲食器	0.0	100.0	0.0	0.0	36.8	10.5	52.6
陶磁器製造業計	3.4	96.6	0.0	1.1	57.5	6.9	34.5
珪砂	0.0	100.0	0.0	0.0	54.5	18.2	27.3
和飲食器卸売	8.3	87.5	4.2	0.0	58.3	8.3	33.3
電設資材卸売	0.0	100.0	0.0	0.0	61.1	11.1	27.8
建築・土木・生コン	5.9	94.1	0.0	0.0	64.7	17.6	17.6
螺子	5.9	94.1	0.0	0.0	70.6	11.8	17.6
その他業種計	4.6	94.3	1.1	0.0	62.1	12.6	25.3
瀬戸・尾張旭地区取引先計	4.0	95.4	0.6	0.6	59.8	9.8	29.9
名古屋地区取引先計	0.7	99.3	0.0	2.2	83.9	4.4	9.5
当金庫取引先計	2.6	97.1	0.3	1.3	70.4	7.4	20.9
全国	1.5	93.6	4.9	1.7	65.7	17.0	15.6
愛知	0.8	95.0	4.2	2.2	70.4	14.5	12.9

訪問頻度にはおおむね満足と回答

<当金庫取引先>

本調査担当信用金庫の訪問頻度については、「満足している」が97.1%となり、「多すぎる(2.6%)」、「少なすぎる(0.3%)」を大きく上回った。その他の主な取引金融機関についても、「満足している」は70.4%となり、「多すぎる(1.3%)」、「少なすぎる(7.4%)」を上回った。「本調査担当信用金庫以外取引なし」の企業は20.9%となった。

瀬戸・尾張旭地区取引先は「満足している」が95.4%となり、当金庫全体を若干下回った。その他の主な取引金融機関については、「満足している」は59.8%となり、当金庫全体を大きく下回った。また、「本調査担当信用金庫以外取引なし」は29.9%と3割近くにのぼった。

名古屋地区取引先では、「満足している」が99.3%にのぼり、ほとんどの企業が満足している。また、「少なすぎる」の回答は無かった。その他の主な取引金融機関については、「満足している」は83.9%となり、当金庫全体を上回った。「本調査担当信用金庫以外取引なし」は9.5%であった。

全国・愛知県も、訪問頻度について「満足している」が9割以上であった。その他の主な取引金融機関については、「満足している」の回答割合に違いはなかったものの、「少なすぎる」の回答が当金庫と比較して多かった。






















<陶磁器製造業>

本調査担当信用金庫の訪問頻度について、「満足している」が96.6%となり、「少なすぎる」の回答は無かった。その他の主な取引金融機関については、「満足している」は57.5%にとどまった。「本調査担当信用金庫以外取引なし」は34.5%と、当金庫全体を上回った。

業種別でみると、本調査担当信用金庫の訪問頻度について、ノベルティ・電磁器・和飲食器ではすべての調査先が「満足している」と回答した。また「本調査担当信用金庫以外取引なし」は電磁器で4割、和飲食器で5割以上となった。

景気動向調査結果 (名古屋地区)

平成 27 年 9 月

業種		時期	前期 平成 27 年 4~6 月	当期 平成 27 年 7~9 月	来期見通し 平成 27 年 10~12 月	概 況
製 造 業	繊維製品					業況判断DIは0.0、前期比横ばいとなった。 売上高DI、売上数量DIともに0.0。前期比もともに横ばいとなっている。 予想業況判断DIは18.2、今期比18.2ポイント改善する見込み。
	機械・部品					業況判断DIは2.7、前期比2.7ポイントの僅かな悪化となった。但し、受注額DIは13.5、前期比2.7ポイントの改善。売上額DIは10.8、前期比2.7ポイントの改善となっている。 予想業況判断DIは8.1、今期比5.4ポイント改善する見込み。
	紙加工品					業況判断DIは△21.4、前期比横ばいとなった。受注額DIは△7.1、前期比7.2ポイントの改善、売上額DIは△7.1、前期比14.3ポイントの改善となっている。 予想業況判断DIは14.3、今期比35.7ポイント改善する見込み。
卸 売 業	鋼材・伸銅品					業況判断DIは△4.8、前期比14.2ポイント改善となった。売上高DIは△9.5、前期比横ばいであるものの、売上数量DIは△4.8、前期比9.5ポイントの改善となっている。 予想業況判断DIは4.8、今期比9.6ポイント改善する見込み。
	建築材料					業況判断DIは△33.3、前期比横ばいとなった。売上額DIは△6.7、前期比46.6ポイントの改善。売上数量DIは△6.7、前期比40.0ポイントの改善となっており、僅かながらも改善の兆しが見られる。 予想業況判断DIは△20.0、今期比13.3ポイント改善する見込み。
	家具・文具					業況判断DIは△10.0、前期比20.0ポイント改善となった。売上額DI、売上数量DIはともに0.0、前期比はともに10.0ポイントの改善となっている。 予想業況判断DIは0.0、今期比10.0ポイント改善する見込み。
建設業						業況判断DIは13.8、前期比13.8ポイント悪化となった。受注額DIは17.2、前期比3.5ポイントの悪化。売上額DIは13.8、前期比10.3ポイントの悪化となっている。 予想業況判断DIは20.7、今期比6.9ポイント改善する見込み。

※この天気図は、本調査を総合的に判断して作成したものです。



バンコク駐在員事務所通信

平成27年9月
バンコク駐在員事務所
所長 松浦 博章

タイの政治経済等最新事情

1. 政治

8月23日にタイ軍事政権のプラユット首相が大規模な内閣構造に踏み切りました。一向に回復傾向のみられない景気に痺れを切らした形で、経済閣僚を一新したのです。目玉人事としては経済政策のトップにタクシン政権で財務相、商務相を歴任したソムキッド氏が副首相に就任しました。今後の彼の手腕が期待されるところです。また、9月6日に民政移管に向けた新たな憲法案の採決が行われましたが、反対多数で否決されました。これによって、軍事政権がさらに長期化することが決定的となり、現政権はクーデターから数えて3年2カ月に及び1970年以降で最長の軍政となりました。

2. 経済

2015年度のタイ経済が低迷しています。その理由は、2011年9月から2012年12月まで実施された新車購入優遇措置等の景気刺激策の反動、2013年11月から2014年5月まで続いたタイ反政府デモによる混乱の影響によるものと言われています。2015年第2四半期GDPは5期連続でプラスとなりましたが、前年同月比2.8%増と低い伸びが続いています。公共投資が24.7%増加したほか、外国旅行者の増加で観光が好調でしたが、民間投資3.4%減、民間消費1.5%増、輸出5.5%減、輸入10.1%減と主要な経済指標は冴えない結果となっています。国家経済社会開発庁(NESDB)は年初には2015年度の実質GDP成長率を3.0~4.0%と見込んでいましたが、8月に2.7~3.2%に下方修正しました。9月25日にタイ中央銀行は2015年の実質GDP成長率見通しを6月時点の3.0%から2.7%に下方修正し、今年に入ってから3度目の下方修正となりました。

3. 社会

タイ情報通信技術省統計局の調査によると、2014年の高齢者(60歳以上)比率は14.9%で、人口6,500万人のうち約1,000万人が高齢者となりました。推計では、高齢者数は2030年に1,760万人、40年には2,050万人に達すると予想され、タイにおいても高齢社会が間近に迫っています。タイ国民の平均年齢は34歳とASEAN域内ではシンガポールに次いで高齢化が進んでいます(ご参考:日本国民の平均年齢は47歳)。統計では、25年後の2040年からは人口減少が始まる予定です。このため、介護ビジネス等のシルバービジネス需要が急速に膨らんでくることが予想されます。

4. テクノロジー

2015年5月27日にバンコク・チェンマイ間高速鉄道事業の事業化調査合意文書が交わされ、日本の新幹線方式での建設が決定しました。中国との争いに日本が競り勝った理由は、新幹線への安全性だけでなく、実際は建設費120億ドル(約1兆4,800億円)の融資条件が中国は利子が2~4%を提示したのに対し、日本はODA(政府開発支援)からの資金提供で1%の低利条件が評価されたようです。しかし、旅客専用高速鉄道は採算が厳しく、人口20万人余りのチェンマイ市を結ぶ高速鉄道は採算面で疑問視されています。